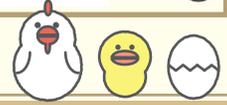




YOMU YOMU JUNIOR

読み応えあり
ふつう
読みやすい



杉森くんを殺すには
長谷川まりる / 作 おさつ / 装画・挿絵
くもん出版

友だちだった杉森くんを殺すことにした15歳のヒロ。「なぜ殺すのか」について、ヒロの気持ちが章ごとに明かされていく。失ったものへの痛みと向き合いながら成長していく物語。友だちづきあいに悩んでいるひとに、ぜひ手に取ってほしい。



海獣学者、クジラを解剖する。
田島木綿子 / 著 山と溪谷社

クジラなどの海洋生物が座礁したり海岸に打ち上げられたりすることを、ストランディングと呼ぶ。ストランディングはなぜ起こるのか？国立科学博物館に勤務する著者が、はく製や標本の作り方、海洋生物の生態なども交えつつ、分かりやすい文章で語る。



千葉からほとんど出ない引きこもりの俺が、一度も海外に行ったことがないままルーマニア語の小説家になった話
清東鉄腸 / 著 左右社

日本どころか家からも出ない著者が、独学で学んだルーマニア語とインターネットの情報を駆使して、海外で小説家としてデビューした。著者の熱意と努力が、昔なら不可能だった事を可能にする。巻末には、ルーマニアを知るための資料リストが掲載されている。



スマホアプリはなぜ無料？
松本健太郎 / 著 河出書房新社

どうして無料アプリなのに経営会社に利益が出るの？「転売ヤー」を法律で取り締まれないのはなぜ？ ついつい課金してしまうアプリやゲームの仕組みについて解説した1冊。読めば、お金や社会の動きに関する疑問を解消してくれる。



チェリーシュリンプ
ファン・ヨンミ / 作 吉原育子 / 訳 金の星社

中学2年生のダヒョンは、「仲よし5人組」から外されないように、必死に空気を読んで無理をしている。新聞づくりの課題で、5人組が嫌っているウンユとうちとけていくことでピンチに陥るが……。「わたしは、わたし」と自分を取り戻していく物語。



目で見ることばで話をさせて
アン・クレア・レゾット / 作 横山和江 / 訳 岩波書店

ろう者の少女メアリーは、兄を事故で亡くしながらも、誰もが手話で話をする島で生き生きと暮らしていた。「生きた標本」として科学者に島外へ誘拐されるまでは。実在した島を舞台にした歴史フィクション。『みんなが手話で話した島』も併せてお薦めしたい。



神様の住所
九螺ささら / 著 朝日出版社

ちょっとした日常やぼんやり考えたことを、三十一音のリズムで切り取った短歌＋短歌に関連する散文集。「教室の窓際の席に座る人百万に一人空の生け贄」のように、つい口に出したくなるリズムが気持ちいい。どのページからでも気軽に読める。



戦争をやめた人たち
鈴木まもる / 文・絵 あすなろ書房

1914年12月24日、戦場にいたイギリス兵たちは、敵であるドイツ兵たちがドイツ語で歌う「きよしこの夜」を聴き、同じ歌を英語で歌い返した。戦う相手も同じ人間で敵国にも同じくクリスマスがあると思った兵士たちは、戦うことをやめた。戦争中の実話をもとにした絵本。



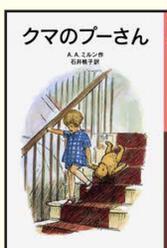
ヒルは木から落ちてこない。
樋口大良 / 著 子どもヤマビル研究会 / 著 山と溪谷社

動物の生き血を吸う生き物、ヒル。未だに生殖方法も不明というほど研究が進んでいない。その生態を明かそうと、小中学生たちが山に入り、登山者に声をかけ、時に血を吸われながら体当たりで研究へと挑む熱意に引き込まれる。



クマのプーさん
A.A.ミルン / 作 石井桃子 / 訳 岩波書店

クリストファー・ロビンのお父さんが、息子に彼と彼の愛するぬいぐるみたちを登場させた物語を作って聞かせ、やがてそれはプーさんの本になった。少しぬけていたり、ひねくれていたりしながらも仲のいい動物たちの日常と冒険が楽しい。



(萌えすぎて)絶対忘れない！妄想古文
三宅香帆 / 著 河出書房新社

『枕草子』はときめきや愚痴、推しの尊さを綴ったエッセイで、『源氏物語』は、恋愛やBLなどの無限カップリングだらけ……。古典文学はむずかしい！という人にこそ読んでほしい新感覚古典文学ブックガイド。

